

平成 29 年度 グループ 1 ユニット B 研究進捗状況

三谷真澄（ユニットリーダー、龍谷大学国際学部教授）

(1) プロジェクトにおけるユニットの研究内容

（調書様式Ⅲ-1「②研究内容」とⅢ-2「全年度に亘る」の当該ユニットの部分）

調書様式Ⅲ-1「②研究内容」

グループ 1 ユニット B は、明治期から十五年戦争期までの日本の仏教者が、帝国主義と植民地主義を思想的背景とする国家間の覇権争いが次第に激化していく当時の国際社会のなかで、他国の仏教者（宗教者）や研究者らといかなる相互交流を行い、国家間の対立を超えた連帯や思想を築きえたのか、その実態を明らかにする。

調書様式Ⅲ-2「全年度に亘る」（平成 27 年度欄の初め）部分

グループ 1 ユニット B 「近代日本仏教と国際社会」

本ユニットは、明治期から十五年戦争期までの日本の仏教者が、帝国主義と植民地主義を思想的背景とする国家間の覇権争いが次第に激化していく当時の国際社会のなかで、他国の仏教者（宗教者）や研究者らといかなる相互交流を行い、国家間の対立を超えた連帯や思想を築きえたのか、その実態を明らかにする。本ユニットは以下の 3 つのサブユニットから構成される。赤松・龍溪・中西・吉永・ジャフィ・林・岩田による一連の研究成果にもとづいて進められる。

サブユニット 1 では、明治仏教の国際化の展開を解明する。具体的には、本学の前身である普通教校（明治 18 年（1885）創立）の教職員を中心として 1888 年に設立された海外宣教会が、年 1 回発行し国外の 200 ヶ所以上の研究機関や図書館に無料で送付していた英文仏教雑誌『亜細亜之宝珠（Bijou of Asia）』の内容分析を行う。また、西洋諸国の宗教思想や文化と接触した明治の仏教者が、他者としてのキリスト教との相互交渉をとおして、いかなる自己認識の変化を被ったのかを、世界の諸宗教を包摂する「宗教（religion）」概念の構築過程とも関連させながら検討する。

サブユニット 2 では、十五年戦争期における日本の仏教者の活動について考察する。日本が国際連盟を脱退（1933 年 2 月）し国際的に孤立するなか、日本仏教の関係者たちは、欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、またアジア諸国の仏教勢力との多面的な協力提携を目指した。それは国策に寄り添いながらも国家の意向には必ずしも回収されない、非常に多様な事業として推進された。これらの事業に関わる資料は、散逸も著しく、保存状況も万全とは言えない状況にある。本サブユニットでは、一連の事業に関係した資料の復刊を期するとともに、戦時下日本の仏教者による国際交流活動の実態を解明する。また同時に、そうした国際的な事業が、既に研究蓄積の厚い「戦時教学」のような同時代の仏教者による国家奉獻的な運動とどのような関係にあったのかを検討することで、戦時下における日本仏教の実態を総合的に解明する。

サブユニット 3 では、大谷光瑞の思想と事業の再検証を行う。能仁・三谷・市川のこれまでの研究実績を活かして遂行されるものである。大谷光瑞（1876-1948）は、大正から昭和の激動の時代、特に戦中戦後を経験した貴重な歴史的証人である。彼は浄土真宗本願寺派の第 22 世宗主であるとともに、日本史上唯一の組織的な中央アジア探検である、大谷探検隊を派遣した人物として知られる。だが、彼の多面性はそれだけにとどまらない。光瑞は、収集資料の研究調査を行う光寿会を主宰し

たという点では「研究者」でもあり、武庫仏教中学の創設や大谷学生の選抜という点では「教育者」でもあり、さらには、ジャワ、トルコ等での産業開発という点では「実業家」でもあった。本サブユニットでは、彼のそうした様々な側面を再検証しつつ、特にこれまで比較的なされてこなかった光瑞自身の思想との関連で、国際的規模で遂行された彼の事業活動の歴史的背景や意義を再考する。それによって、光瑞が開拓した独自の国際交流活動の特徴を明らかにする。

(2) 平成29年度のユニットの具体的な研究内容

(調書様式Ⅲ-2「年度別の具体的な研究内容（【平成29年度】の当該ユニット部分）」)

【グループ1ユニットBの計画】

『亜細亜之宝珠』の記事内容・構成を把握し、同誌にかかわった仏教者たちの国際ネットワークや思想的背景を探る。また同誌関連資料の読解・研究を進める（サブユニット1）。日本仏教の研究者が組織した国際仏教協会についての研究を進め、同協会の機関誌として1934年から1944年まで刊行された雑誌『海外仏教事情』の復刊を行う（サブユニット2）。『大谷光瑞全集』や雑誌『大乘』および『印度地誌』等の記述に基づき、光瑞のインド訪問の意図や活動の意義を、当時の国際状況との関係において検討する（サブユニット3）。

(3) 平成29年度の進捗状況・研究成果・根拠データ等（プロジェクト全体に関わる活動は除く）

<上記(2)「具体的な研究内容」の進捗状況及び達成度>

(サブユニット1)

- 嵩を中心に、若手研究者・大学院生とともに分担して『亜細亜之宝珠』の記事の内容・構成の把握、関連資料の蒐集とその読解をすすめた。前年度に完遂した、第1号の記事の翻訳に続く原文の翻訳と、記事の中に現れる海外の通信者の特定作業もあわせて進めている。
- 『亜細亜之宝珠』に関する研究会を開催し、仏教の国際的ネットワークの日本側のキーパーソンとなる、赤松連城について研究を深めた。また、欧米の仏教研究者と仏教に関心を持つ知識人と明治期の日本仏教徒の関係について議論をした（研究会一覧①②③）。

(サブユニット2)

- 『【編集復刻版】資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』の〔第3期〕『復刻『国際仏教通報』『日華佛教』『支那仏教事情』『東亞仏教事情』』を刊行した。今期は、中国仏教との提携に関する資料を中心に復刻した。いずれも、戦時下の日中仏教の交流を記録した貴重な資料である。

(サブユニット3)

- インドとの二国間交流事業シンポジウム「日印交流における仏教」を開催し、能仁が大谷光瑞とインドの関係についての研究成果を報告した（研究会一覧⑤）

<上記(2)以外でユニットとして新規に実施した研究内容の進捗状況及び達成度>

(サブユニット1)

- ハイデルベルク大学より Stephan Licha 氏を招聘し、龍谷大学の若手研究者とともに研究会を開催した（研究会一覧④）。この国際的な研究交流をととして、今後、同大学で進めている近代日本仏教プロジェクトと連携しつつ、『亜細亜之宝珠』に関わった仏教者たちの、特に欧米との国際ネットワークの解明について研究を進めることになった。また、そのための国際会議を来年度に計画することになった。
- グループ2ユニットBとの共同事業として、『仏教英書伝道のあけぼの』を刊行した。我が国では、1883年頃から仏教・真宗教義を英語で紹介しようとする動きははじまっており、赤松連城・

南條文雄・ツループ (JAMES TROUP) らにより、数種の英文仏教書が刊行されている。本書では、これら初期の仏教英書伝道に関する資料を復刻するとともに、解説論文を付した。

- 研究論文作成の一環として、本多がワーキングペーパーをまとめた (ワーキングペーパー一覧①)。

(サブユニット2)

- 『支那仏教事情』とその後継誌『東亞仏教事情』は、昭和13年12月に日華仏教研究の機関誌として創刊された。日中戦争下での中国仏教との提携・交流事業を知る上で貴重な雑誌である。『支那宗教』は6号発行され、『東亞宗教事情』は、昭和18年11月発行まで27号刊行されている。他大学等での所蔵雑誌の複写や古本を購入するなどして、全雑誌のデータ収集を終え、総目次の作成を終了した。
- 戦時下の日本仏教の国際交流に関する研究会を、3回にわたって開催した (研究会一覧⑥⑦⑧)
- 研究論文作成の一環として、中西がワーキングペーパーをまとめた (ワーキングペーパー一覧②)。

(サブユニット3)

- 能仁が旅順博物館創設100年記念シンポジウムにおいて、「チベットの仏伝図「釈迦牟尼世尊絵伝」に見られる阿闍世王教化説話の特色」と題する研究発表をおこなった。
- 大谷光瑞が国際的規模で遂行した事業活動の歴史的背景や意義を再考するため、旅順博物館館長の王振芬氏や台湾・国立高雄大学前研究員の黄朝煌氏を招聘し、研究会を開催した (研究会一覧⑨⑫)。これらの研究を通じて、光瑞が活動した時代の社会的背景や近代仏教の諸相などを明らかにすることができた。特に実業家、および農学者としての側面に関して、今後の総合的検証の足かかりが得られた。
- 研究論文作成の一環として、市川がワーキングペーパーをまとめた (ワーキングペーパー一覧③)。

<問題点 (実施できなかった研究を含む)>

- 特になし。研究計画どおりの事業が実施された。

平成29年度ユニット研究活動の根拠データ

<ユニット研究会一覧>

①2017年度 第1回 研究会

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA (亜細亜之宝珠)』研究会 (第6回)

■開催日時:2017年7月24日 (月) 16:30~18:00

■場所 : 龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■参加者 : 6人

②2017年度 第2回 研究会

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA (亜細亜之宝珠)』研究会 (第7回)

■開催日時:2017年10月6日 (金) 16:00~18:00

■場所 : 龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■参加者 : 6人

③2017年度 第3回 研究会

■報告題目：『THE BIJOU OF ASIA（亜細亜之宝珠）』研究会（第8回）

■開催日時：2017年12月1日（金）16:00～18:00

■場所：龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■参加者：6人

④2017年度 第4回 研究会

■テーマ：明治仏教の国際化に関する共同研究への展望

■開催日時：2017年12月8日（金）15:00～18:00

■場所：龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目：

Stephan Licha（ハイデルベルク大学日本学術研究所）

「Mahāyāna in Europe: Japanese Buddhists and Their Contribution to Academic Knowledge on Buddhism in Nineteenth-Century Europe」

嵩 宣也（龍谷大学大学院）

「明治仏教における翻訳語の研究—特に真宗の英訳仏書を中心に—」

■参加者：10人

⑤2017年度 二国間交流事業シンポジウム

■テーマ：日印交流における仏教

■開催日時：12月23日（土）11:00-18:45

■場所：龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目：

〔公開講演会〕

小島裕子（Kojima, Yasuko, 国際仏教学大学院大学）

「大仏を開眼した菩提僊那（ボーディ・セーナ）—日本文化の中に構築された「インド」—」（“Bodhi Sena, the Priest to Consecrate the Great Buddha: Imagined ‘India’ in the History of Japanese Culture”）

〔研究報告〕

Minowa, Kenryo（菱輪顕量，東京大学）

“Longing for India: Japanese Buddhist and India”

Dake, Mitsuya（嵩 満也，龍谷大学）

“Japanese Buddhists Views of India Seen in the Magazine Bukkyokaigaijijo (1888-1893)”

Okuyama, Naoji（奥山直司，高野山大学）

“Japanese Buddhists in Recovery Movement of the Bodh Gaya Temple After 1891: The role of Shaku Kōzen and the Shingon Sect”

Tomas Newhall（トマス・ニューホール，東京大学）

“From “bongaku” 梵学 to “indo tetsugaku” 印度哲学: The Development of Indology at Japanese Universities”

Nohnin, Masaaki（能仁正顕，龍谷大学）

“Otani Kozui and India: Seeking the Origin of the Eastward Spread of Buddhism”

Ranjana Mukhopadhyaya（ランジャナ・ムコパデイヤヤ，デリー大学）

“Proselytizing in the “Western Paradise”: India in the making of Fujii Nichidatsu and Nipponzan Myohoji”

Okamoto Yoshiko（岡本佳子，国際基督教大学アジア文化研究所）

“A Dream of an Asian Religious Conference: Japan-India Cultural Interaction behind the Journey of Okakura Kakuzo, Oda Tokuno and Hori Shitoku to India”

Bessho, Yusuke (別所裕介, 駒澤大学)

“Buddhist Heritages Development Assistance as Present-day India-Japan Friendship: By Comparison to JICA, APECF and FPMT”

Sato Ryojyun (佐藤良純, 大正大学)

“Indian Deities of Buddhism and Hinduism in Japan”

Funahashi, Kenta (舟橋健太, 龍谷大学)

“Development of Buddhist Conversion Movements in Contemporary India: The View from Local and Global”

Togawa, Masahiko (外川昌彦, 東京外国語大学)

“Living with Gandhi: Fujii Gurji and India-Japan Relations in the 1930s”

■参加者 : 30 人

■共催 :

東京外国語大学 AA 研・日本学術振興会二国間交流事業 (JSPS-ICHR), 龍谷大学・南アジア研究センター (RINDAS) / 世界仏教文化研究センター (RCWBC), 東京外大 AA 研・基幹人類学班, Samutthan Foundation, New Delhi

⑥2017 年度 第 1 回 セミナー

■テーマ : 日本仏教アジア布教の諸問題

■開催日時 : 2017 年 7 月 31 日 (月) 12 : 50 ~ 17 : 40

■場所 : 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者・報告題目 :

中西直樹 (龍谷大学教授)

「日本仏教によるアジア布教史概観」

大澤広嗣 (文化庁文化部宗務課専門職)

「財団法人朝鮮仏教団の留学生派遣と宗教民族学者の金孝敬」

野世英水 (龍谷大学非常勤講師)

「真宗本願寺派関東別院の活動と終焉」

中西直樹

「戦前期日本仏教のシンガポール布教—昭和初期までの本願寺派の動向を中心に—」

■ファシリテーター : 林 行夫 (龍谷大学教授)

■参加者 : 27 人

■共催 : 龍谷大学仏教文化研究所, 龍谷学会

⑦2017 年度 第 2 回 セミナー

■報告題目 : 近代仏教の時代のすれちがい—戦前, 戦中の日本で刊行された仏教雑誌, 書籍にみるカンボジア関連記事—

■開催日時 : 2017 年 11 月 17 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 00

■場所 : 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者 : 笹川秀夫 (立命館アジア太平洋大学教授)

■ファシリテーター : 林 行夫 (龍谷大学教授)

■コメンテーター : 中西直樹 (龍谷大学教授)

- 参加者 : 10 人
- 共催 : 龍谷大学仏教文化研究所

⑧2017 年度 第 3 回 セミナー

- 開催日時 : 2018 年 2 月 24 日 (金)
- 場所 : 大宮学舎西翼 3 階小会議室
- 報告者・報告題目
安藤徳明 (2017 年度 BARC 公募研究員, 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所プログラム研究員)
「タイの仏教寺院における社会福祉機能の実態研究」
神田英昭 (高野山真言宗僧侶)
「タイと日本の仏教は対話できるか？」
- コメンテーター : 村上忠良 (大阪大学大学院教授)
- 参加者 : 16 人
- 共催 : 龍谷大学仏教文化研究所

⑨2017 年度 第 1 回 学術講演会

- テーマ : 大谷光瑞研究をめぐる諸問題～旅順博物館開設 100 周年にあたって～
- 開催日時 : 2017 年 6 月 30 日 (金) 14 : 45～18 : 30
- 場所 : 龍谷大学大宮学舎本館講堂
- 報告者・報告題目 :
王 振芬 (旅順博物館館長)
「旅順博物館所蔵の仏教文物」
- ※通訳 : 徐 光輝 (龍谷大学教授)
- 掬月誓成 (別府大谷記念館副館長)
「大谷光瑞師の都市計画について」
- ファシリテーター : 三谷真澄 (龍谷大学教授)
- 参加者 : 102 人

⑩2017 年度 第 2 回 学術講演会

- 報告題目 : Mid-century Buddhist Engagements in America: The Berkeley Temple Newsletter 1939-1953
- 開催日時 : 2017 年 7 月 3 日 (月) 17 : 30～19 : 00
- 場所 : 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室
- 報告者 : Scott Mitchell (米国仏教大学院教授)
- ファシリテーター : 嵩 満也 (龍谷大学教授)
- コメンテーター : 釋氏真澄 (龍谷大学大学院研究生)
- 参加者 : 14 人
- 共催 : 龍谷大学仏教文化研究所

⑪2017 年度 第 3 回 学術講演会

- 報告題目 : 明治印度留学生
- 開催日時 : 2017 年 12 月 8 日 (金) 13:00～14:30
- 場所 : 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者：奥山直司（高野山大学教授）

■参加者：15人

⑫2017年度 第4回 学術講演会

■報告題目：大谷光瑞師と台湾・逍遙園～その建築空間と修復事業を中心として～

■開催日時：2018年1月19日（金）11:00～12:30

■場所：龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者：黄朝煌（新潟大学現代社会文化研究科・客員研究員，前国立高雄大学・研究員）

■参加者：18人

<ユニット関係ワーキングペーパー一覧>

①本多 彩「シアトルの日本人移民仏教徒—1913年から1924年の『佛之教』から—」

②中西直樹「戦前期日本仏教のマライ半島布教」

③市川良文「龍谷大学図書館蔵『寄託本』大谷光瑞師書簡」について」

④釋氏真澄「戦時下における日本仏教のアメリカ化の諸相—強制収容所での真宗伝道—」

<ユニット研究において協力を得た学外機関・研究者一覧>

①Stephan Licha（ハイデルベルク大学日本学術研究所）【第4回 研究会】

②小島裕子（国際仏教学大学院大学）【二国間交流事業シンポジウム】

③奥山直司（高野山大学）【二国間交流事業シンポジウム，第3回 学術講演会】

④Tomas Newhall（東京大学）【二国間交流事業シンポジウム】

⑤Ranjana Mukhopadhyaya（デリー大学）【二国間交流事業シンポジウム】

⑥岡本佳子（国際基督教大学アジア文化研究所）【二国間交流事業シンポジウム】

⑦別所裕介（駒澤大学）【二国間交流事業シンポジウム】

⑧佐藤良純（大正大学）【二国間交流事業シンポジウム】

⑨外川昌彦（東京外国語大学）【二国間交流事業シンポジウム】

⑩笹川秀夫（立命館アジア太平洋大学教授）【第2回 セミナー】

⑪神田英昭（高野山真言宗僧侶）【第3回 セミナー】

⑫王 振芬（旅順博物館館長）【第1回 学術講演会】

⑬掬月誓成（別府大谷記念館副館長）【第1回 学術講演会】

⑭Scott Mitchell（米国仏教大学院教授）【第2回 学術講演会】

⑮黄朝煌（新潟大学現代社会文化研究科・客員研究員，前国立高雄大学・助理教授）【第4回 学術講演会】

【調査先①（大澤広嗣）】

〔調査先〕

・成田山仏教図書館

【調査先②（大澤広嗣）】

〔調査先〕

- ・大韓仏教曹溪宗曹溪寺
- ・朝鮮総督府庁舎跡地
- ・旧京城府庁（現・ソウル市図書館）
- ・京城帝国大学法文学部跡地（現・マロニエ公園）
- ・天道教中央大教堂
- ・大韓仏教曹溪宗奉恩寺
- 〔調査協力者〕
- ・黄朝煌（国立高雄大学・相違設計與建築学系永統居住環境科技中心）

【調査先③（吉永進一）】

〔調査先〕

- ・松ヶ岡文庫
- ・智徳院

<ユニット研究費（個人分担金含む）による海外調査一覧>

- 1 2017年4月26日／千葉／戦前日本の仏教教団による海外布教に関する資料収集／大澤広嗣
- 2 2017年6月25日～28日／韓国／韓国近現代宗教史に関する現状確認及び資料収集／大澤広嗣
- 3 2018年1月12日～13日／松ヶ岡文庫での鈴木大拙に関する調査／吉永進一